

【国語／古典文法】

～ClassPad.net のファイルふせん・同時編集機能を活用する～

古典文法の正しい理解と運用を目指す授業

古文の現代語訳と作文を行い、古典文法の総復習をする。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：生徒に古語で書かれた文章の現代語訳と作文をさせることで、既習の古典文法を正しく理解させるだけでなく、運用をさせることを目指す。

生徒向けの目標：古語で書かれた文章の現代語訳と作文を行うことで、習得した知識を実際に文章読解に用いることができる力がついているかの確認をする。

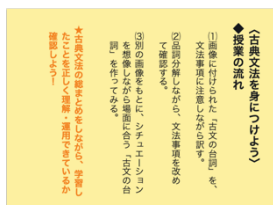
【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **プリント削減**：画像付きの課題をふせんで配布することで、紙のプリントよりも鮮明な画像を示すことができる上に、効率化とコストの削減も図ることができる。
- ・ **協働学習促進**：グループワークにおいて生徒間で課題に対する解答をスムーズに共有させ、その比較も容易に行うことができる。
- ・ **探究学習促進**：デジタルノートの共有によって、文法事項の確認を生徒同士で行うことができるとともにアイデアの共有もスムーズに行うことができ、現代語訳や作文の際の協働探究を促進することができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1



概要の説明

「画像に付された台詞（古文）の訳作り・共有 → 品詞分解・文法事項の確認 → 別の画像を見て台詞（古文）作り・共有」という活動をグループごとに行うという授業の流れを伝える。

その上で、この活動によって古典文法の総まとめを行い、今まで学習してきた古典文法を正しく理解・運用できているかの確認をするという意図を伝える。

step2



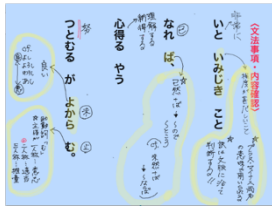
現代語訳作り

クラスをグループに分け、教員が配布した画像の台詞（古文）部分を、グループごとに現代語訳させる。このとき、画像のシチュエーションや文法に留意しながら訳作りを行うことを伝える。出来上がったものは、クラスで共有する。

古文で書かれた台詞が入った画像を貼り付けたファイルふせんを、授業支援機能を用いて生徒に配布する。現代語訳を書き込むスペースを画像内に作っておき、そこに現代語訳を書き込ませる。作業時は、グループごとに同時編集機能を利用するよう指示する。

出来上がったら、授業支援機能を用い、現代語訳を書き込んだファイルふせんでクラス全体に共有させる。

step3



文法事項の確認

提示した台詞の文についての品詞分解、および文法事項の確認を行う。

テキストふせんに台詞や文法事項を入力したものを用意しておき、授業支援機能で生徒に配布する。またそのふせんをプロジェクターや電子黒板に投影し、教員が適宜手描き機能を活用しながら説明を行う。

step4

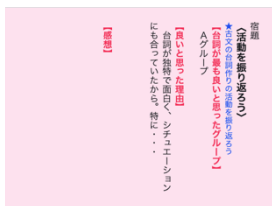


古文の台詞作り

先ほどとは別の、台詞部分が空欄になっている画像を生徒に配布し、グループごとに5文節以上の台詞を考えて作らせる。このとき、文法事項はもちろんのこと、画像のシチュエーションにも留意しながら台詞作りを行うことを伝える。出来上がったものは、クラスで共有する。

台詞部分が空欄になっている画像を貼り付けたファイルふせんを、授業支援機能を用いて生徒に配布する。そこに手描き機能で台詞とその現代語訳を書き込ませる。作業時は、グループごとに同時編集機能を利用するよう指示する。出来上がったら、授業支援機能を用い、台詞を書き込んだファイルふせんをクラス全体に共有させる。

step5

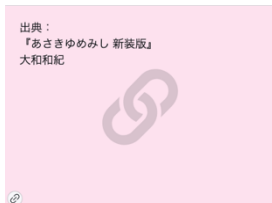


まとめ・宿題

授業内容を振り返り、宿題として step4 で共有された台詞について最も良いと思ったものをピックアップし、その理由や活動の感想をふせん内に書き込んだものを提出することを伝える。

宿題は課題として回収する。この際、提出期限を設定し、次回授業時に解説や講評、ピックアップが最も多かったセリフの発表などができるようにするとよい。

step6



参考・補足

今回の授業のように、古典の学習に抱かれがちな抵抗感を軽減するものの一つとして、日本の古典文学が漫画化された作品の例を紹介する。

リンクふせんにて、書籍の案内（例：大和和紀著『あさきゆめみし』など）をする。漫画の概要を説明したテキストふせんを用意してもよい。時間に余裕があれば、内容も授業内で確認をする。